

世代重複モデルにおける 公的年金の就業・退職行動及び動学に与える影響

福田 勝文¹

要約

一世代に熟練労働者と非熟練労働が存在する世代重複モデルにおいて積立方式の年金政策が老年期の就業・退職の選択及び経済の動学に与える影響を考察する。政府は保険料を若年期の賃金所得から徴収した後に資本市場に供給する。政府は次期の老年期の消費者に保険料に比例する年金給付と一括固定の年金給付を行う。熟練(未熟練)労働に対する保険料率を上昇させれば、未熟練(熟練)労働者は早く退職するようになり、熟練(未熟練)労働は遅く退職するようになることがわかった。また、未熟練(熟練)労働者が就業・退職に無差別な領域では資本蓄積が労働参加率の急(緩慢な)減少をもたらし、早く(遅く)賃金が高くなることがわかった。

¹ 神戸大学 経済学研究科 博士後期課程 046d204e@gmail.com

